

職場からの発言

女性に優しい労組は男性にも優しい労組

一般職女性に昇進の道が開かれたが

沼田 みどり

金融労連は、9月16日～17日、東京で第12回定期大会を開催し新年度方針を決定。新年度執行部を選出しました。大会では、新入職員が学生時代の奨学資金返済を抱えている実態を踏まえて、金融機関に要求するなど新たな取り組みを含めて各地の職場のたたかいが報告されました。ここでは女性活躍の問題についてさわやか信金従組の沼田みどり副委員長の発言を紹介します。

新人制度が施行

さわやか信金従組副委員長の沼田です。私は女性活躍推進の問題と組合員の本音を聞いて活動したいという点について報告します。

さわやか信金では、この4月から新人事制度が実施され、新しく業務職という検印役ができました。従業員組合では、組合の委員長が「該当者の要求を聞いて配慮した方がいい」と提言していたのですが、その提言への対応はありませんでした。そして、新人事制度が実施されましたが当該業務職への応募はわずか5人でした。そのうちの一人とたまたま話す機会があったので、いろいろ話を聞きました。彼女は業務職になるのに際しては「課長になる可能性のあるのが一番の不安要素です」と言い「検印役止まりだったらもっとたくさん応募があったと思う。私も課長にはなりたくないのです」と打ち明けてくれました。

業務職は一般職の女性に課長になるチャンスを与えるというものです。総合職の人は業務職になれず総合職から一般職にコース転換をしなければならず、その時点で減給になります。コース転換して業務職を担当して、問題がなく資質があると判断されると課長になります。彼女は「検印は良いけれど課長にはなりたくない」と言っていました。業務職として6月1日からスタートしました。彼女は「人事に聞いていますが、

よくわからず手探りでやっています。なにをしいのか分からない状態です」と報告してくれました。そして「無理せず気張らず私らしく頑張ろう」というメッセージをくれました。

これを受けて彼女なら大丈夫だろうと思いました。業務職になった人はほかに4人います。3カ月たちましたので5人を集めて色々和本音を聞いて、人事とのパイプ役になり今期だけではなく、続いていけるようにしたいと思っています。

過労自殺看護師のお母さんの言葉

誰か話せる人がいなかったのだろうか

先ほど全労連の副委員長の長尾ゆりさんのあいさつの中で心に残った言葉があります。笹本書記次長の提案でも触れられましたが、過労自殺した看護師杉本綾さんのお母さんの言葉です。「誰か一人でも言葉をかけてくれる人、話せる人がいなかったのだろう。もっともっと組合が大きくなってください」という言葉です。

今さわやか信金の中で私が特に頑張っていることは女性にとって身近な組合、相談しやすい組合です。そのため、昨年女性のつどいを単組で6月に開催して21名が参加してくれました。そして今年は先週になりますが（9月6日）、参加しやすいように「女子会」と改めて、今度は27名が参加してくれました。終わりのあいさつの中で少し欲張って「来年は40名から50名集まりたいので皆さん周りの人に声をかけて誘ってぜひ参加して下さい」とお願いをしました。佐藤一枝副委員長が去年の金融労連の女性のつどいで「女性の働きやすい職場は男性にとってもいい職場だ」と講演しました。私も女性が相談しやすい組合は男性にとっても相談しやすい組合だと思い、これからも頑張って活動続けたいと思います。